

最終試験結果の要旨

報告番号	理工研 第 451 号	氏 名	岡松 道雄
審査委員	主 査	木方 十根	
	副 査	鯨坂 徹	二宮 秀與

最終試験結果の要旨

平成29年8月17日、午後14時30分より、主査・副査全員および4名の学内外からの聴講者の出席のもと、岡松道雄氏による論文発表および質疑応答により、学位論文の内容および関連知識に関する最終試験を行った。論文発表は、スライドを用いて約1時間に亘り行われ、とくに研究対象である地方都市の公的空間の活用の重要性といった研究背景の説明、公共空間の活用に関する文化と制度の歴史的考察の重要性、申請者本人が参画する社会実験という研究方法の特性、以上について説明が行われたのち、学位論文の本体に即し、研究によって得られた知見、今後の研究課題および将来の展望について説明がなされた。これに対し、主査・副査等から、制度緩和による大都市における成果と地方都市での現状に対するより詳しい説明の補足、地方都市の中心部という領域の定義の明確化、とくに地形からみた近代都市計画と伝統的都市との歴史的不整合を示す具体的事例について質疑がなされ、いずれも補足のスライド等を用いて適切な応答が行われた。

学力の確認結果の要旨

論文発表後の質疑応答において、路上イベントを実施する際の実務的課題についての詳細な質疑や、研究の今後の展望、期待される社会的効果についての質疑がなされた。いずれについても多角的な視点から適切な応答がなされた。それにより申請者が、建築・都市計画に関し、論文の内容に留まらない、幅広い学力と見識を備えていることが確認された。

質疑応答後、主査・副査により論文本体および発表と質疑応答の結果を踏まえた協議を行い、若干の誤字・脱字等が指摘されたものの、論文、発表、および質疑応答の内容は適切であるとの結論を得た。

以上より審査委員会は、申請者が博士(工学)の学位を与えるに十分な学力を有するものとして認定した。